

【座談会】

# 世界都市としての魅力を高めるためには

「まちの顔」である札幌の都心部をこれからどんなふうに変えていけばよいのか？  
都市計画の立場から札幌のまちづくりにかかわってきた小林英嗣さん、生まれも育ちも札幌市中央区で、狸小路の活性化に取り組んできた竹内宏二さん、そして全国各地でまちづくりやイベントプロデュースにかかわっている森下慶子さんに都心づくりを大いに語っていただきました。

札幌発の文化を

**小林** これからの札幌のまちづくりにおいて都心を重点的に考えていくのは非常に大切なことです。しかし商業地としての活性化だけを中心に据えていくと、これまでのような商店街中心の狭い枠組みで理解されがちなので、都心の魅力を支える文化的な活動や、人間の生活や街の質の向上を含めた幅広い観点から議論を進めなければならぬと思います。

**森下** 札幌の街並みを外から見ていて感じるの、都心に観光客がとて

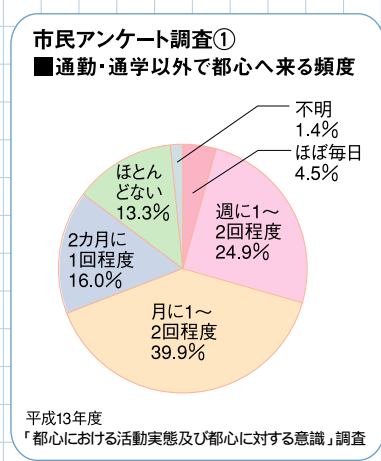
も多いということ。東京にも外から人がたくさん入って来ています。札幌では観光客と市民の区別がつきやすいです。外からたくさん人が訪れるという特徴を踏まえて札幌独自のまちづくりを考えていく必要もあると思います。

**竹内** 私は人口が三十万人くらいのころから札幌を見てきましたが、昔は駅前通でも狸小路でも生活や仕事と街とが密着していたという気がします。札幌オリンピックを契機に街並みも変わり、古い建物は消えていってしまいました。昔から住んでい

た人たちが、都心から離れていったのです。

今、狸小路の周辺には六つの商店街がありますが、十三年ほど前から自発的に「活性化協議会」というのをつくって、官がリードしてきたまちづくりをもう一度われわれで考えてみようという活動しています。

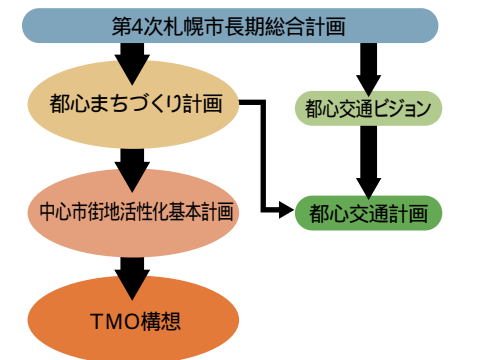
**小林** 札幌のように雪の多く降る寒い街で短期間に人口がこれだけ伸びた例は、世界にありません。市民が生活しやすいようサポートする意味で、行政が主導権を取って街の整備を急速に進めなければならなかった



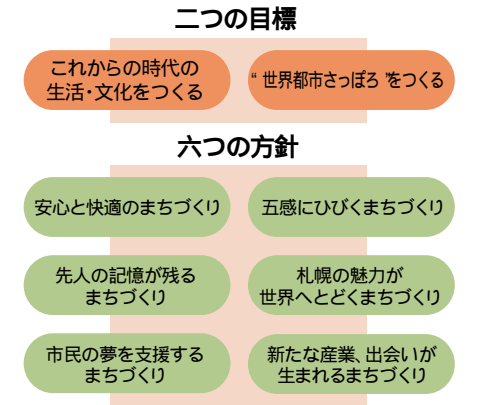
**出席者**  
**小林英嗣氏** 北海道大学大学院 都市空間計画学研究室・教授  
**竹内宏二氏** 札幌狸小路商店街振興組合理事長  
**森下慶子氏** (株)カーピー代表取締役・イベントプロデューサー

時期があつたことは事実です。それが役割分担のようになっていまい、これまでのまちづくりが行政任せになつてきたといえるかもしれません。札幌のまちづくりは今、都市の重要

■都心まちづくり計画の体系



■都心まちづくり計画の目標と方針



平成十一年度からスタートした「第四次札幌市長期総合計画」(平成十二年(三十二年)では、札幌市基本構想で掲げる「北方圏の拠点都市」「新しい時代に対応した生活都市」という二つの都市像を受け、魅力的で活力ある都心整備を目標としています。そしてこの長期総合計画に基づき、都心の魅力と活力を高めるために、平成十四年に都心のまちづくりの長期的な展望を示した「都心まちづくり計画」と、その実現に向けて、当面取り組むべき施策と事業を整理した「中心市街地活性化基本計画」を策定しました。

さらに、平成十三年には、まちづくりを交通面から支えるものとして

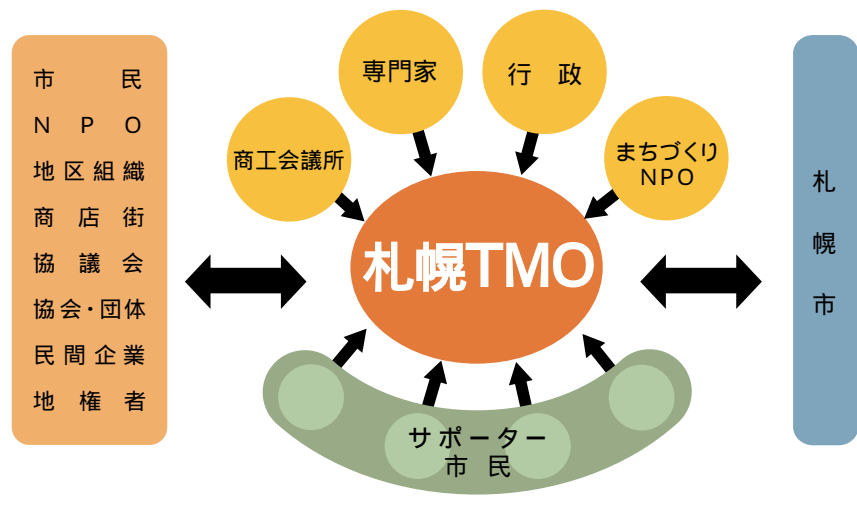
札幌TMOも発足

これからの都心のまちづくりは、商店街、民間事業者、市民、行政などが総力を挙げて取り組むことが必要になります。

そうした都心のまちづくりのコーディネーターとなるのが、TMOです。TMOになれる組織は、中心市街地活性化法で「商工会」「商工会議所」「第三セクター(特定会社・公益

■TMOの役割と各主体とのつながり

- まちづくりの新たな展開方向性の調査・研究と提案
- 地区の枠を越えたソフトプログラムの企画・運営
- 民間主体による個別事業の誘発・支援
- 都心のまちづくりの検討へ多くの人に参加できる場と機会の提供
- 市民の自主的で多彩な活動環境の整備



法人」と定められており、札幌市の場合は札幌商工会議所がその母体となつて、各分野の人々の協力によって運営されています。商工会議所では、商業などの活性化事業の構想として、「札幌TMO構想」を策定し、一体的なまちづくりに取り組むための体制が整備されました。

\*TMO  
Town Management Organization (タウンマネジメント機関)の略称。中心市街地活性化基本計画に基づいて創設される認定構想推進事業者(中心市街地活性化法第18条)。